

正門から続く桜並木のつぼみも日一日と膨らみ、今年も希望に満ちた季節が巡ってまいりました。

本日ここに大阪府立北かわち臯が丘高等学校 第14回 卒業証書授与式を、卒業生、保護者、ご来賓の皆様とともに迎えられたことはこの上ない喜びです。

ご臨席賜りましたご来賓の皆様には、高いところからではございますが、厚く御礼申し上げます。

只今、卒業証書を授与された219名の皆さん、卒業おめでとう。今日の喜びは、君たちのたゆまぬ努力の結晶であるとともに、日々君たちを支えてくださったご家族、苦楽を共にした仲間や、指導いただいた先生方のお陰でもあります。お世話になった全ての方々への感謝の気持ちを、どうか忘れずにいてください。

私から巣立って行く皆さんに、2つの言葉を贈りたいと思います。

「進む路を決めるのは風ではない、帆の向きである。人の行く手も海に吹く風に似ている。
人生の航海でその行く末を決めるのは、凧でもなければ、嵐でもない、心の持ち方である。」
この言葉は、アメリカの作家、エラ・ウィーラー・ウィルコックスの言葉です。

人生はよく航海や旅に例えられます。その海原に吹く風は、いつ、どこで、どこから吹くのか、わかりません。
これからの人生、みなさんの周りにはいろいろな風が吹くことでしょう。

「追い風」であれば、自信もやる気も出ることでしょう。

ですが、努力が報われなかったり、プレッシャーやストレスに耐えられない「向かい風」の時もあるかもしれません。

そんな時は今の言葉の冒頭、「進む路を決めるのは風ではなく、帆の向き」であることを、思い出してほしいのです。

皆さん、帆船を想像してみてください。帆船は帆、に風をあて、それを推進力としています。ですので、追い風であれば風に乗り進んで行きます。では向かい風の時はどうでしょう。

実は、向かい風でも進むことができるのです。

その秘密は「帆の向き」にあります。帆をどの向きに、どう張るかによって、向かい風でも、横風でも、ちゃんと目的地に向かって進むことができるのです。

皆さんのこれまでの人生でも誰が悪いわけでもない、腹を立てても仕方がない。そう分かっているけど悔しい、悲しい、と感じたこともあったのではないのでしょうか。

しかし、これからは、そんな時、帆の向き、つまり、自分の気持ちの持ち方を変える努力をしてみませんか。

それに、向かい風は悪いことばかりではありません。最近は見かけなくなりましたが空に揚げる帆、これは向かい風の時のほうがよく揚がります。ところが追い風になると、途端に力を失ってしまいます。

また、スキージャンプも一見追い風の方が、風に乗って飛んで行くことができそうですが、実は向かい風の方が有利なのです。帆であっても、スキージャンプであっても、向かい風によって発生する「揚力」という上向の力が働くからです。

私はこれを、向かい風に立ち向かうとその人を、応援してくれる人や力が生まれるからだと考えています。

みなさんのこれからの人生、目的地まで最短距離で辿り着くことができればよいかもしれませんが、時には漂流や、難破を、避けられない時があるかもしれません。しかし、大事なものは「どんな風が吹こうとも、その風を自分の味方にしてしまう強い気持ち」「目的地をめざし続ける、あきらめない心」、そして「風を読み、帆の向きを変えられる力」だと思います。

そうすれば、きっと目の前が開け、進む力、応援してくれる人や力が生まれてくるものと思います。

とは言え、皆さんはまだ、自分の人生航路と言う大海原へ漕ぎ出したばかりです。

当然不安や心配もあるでしょう。そんな航海初心者の皆さんへ

京セラの創業者である稲盛和夫氏の言葉を贈り、私の式辞といたします。

「自分で人生を歩き始めるということは、海図もない大海に漕ぎ出していくようなものです。

そのとき、人生の先輩から教わったことが羅針盤として思い出されるような準備だけはしておくべきです。」

令和6年2月27日

大阪府立北かわち皐が丘高等学校

校長 服部 有晋